

- 対象地域  
広島県山県郡北広島町  
(西中国山地国定公園)
- 設立日: H16.11.7
- 構成員数: 32人
- 全体構想作成日: H18.3.31
- 実施計画作成日: H18.10.30  
(R1.5現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

## 八幡湿原自然再生協議会

再生  
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

## 【事務局】

730-8511  
広島市中区基町10-52  
広島県自然環境課  
野生生物グループ内  
電話: 082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

## 活動報告

## 霧ヶ谷湿原の保全活動について

【報告者】 (公社)日本山岳会広島支部 斎陽

2019年6月2日(日)「ひろしま山の日」のサテライト会場となっている北広島町八幡高原において、(公社)日本山岳会(以下「JAC」という)広島支部が中心となって、霧ヶ谷湿原の中央部コンクリート水路右岸西側の今年2回目となる保全活動を実施しました。

今回は関係団体も含めて総勢57名の参加となりました。午前9時から高原の自然館前のコナラ広場で開会式を行い、安全第一に保全活動を実施するため、機械班と手作業班が同じエリア内で作業しないように、事前に手順を説明した後、作業を開始しました。

整備するエリアは、自然再生事業の工事終了から約10年が経過し、カラコギカエデは株立ち大きく、ノイバラは地を這い重なり合って成長している状態で、草刈り機での刈り取りは困難を極めました。このような状況から、多くの皆様に協力いただいたにも拘わらず、前回(4/22)の1/3程度の範囲にとどまりました。

今回のエリアに限らず、ノイバラを中心とする雑木の刈り取りを通じて分かったことは、自然再生工事で水を供給するために設置された幹線導水路や補助導水路には殆ど水は無く、水路が干上がっているということです。

当地の自然再生事業のコンセプトのひとつに「湿原再生は、その環境条件の整備を通して、自然の回復力で行う」としています。この「環境条件の整備」とは、コンクリート水路に取水堰を設け、そこから幹線導水路に水を引き込み、等高線に沿って設置された補助導水路に水を溜め、湿地環境を整えることです。また「自然の回復力で行う」とは、湿地環境が整備されていることが前提の話です。

ところが現状は、湿地環境が整備されているはずの事業地に、水の供給ができていないまま「自然の回復力」に期待して10年近くが経過しました。こうした乾燥した土地は、カラコギカエデやノイバラにとって最も生育に適した環境であり、遷移を抑制することはできません。

この状況ではJAC広島支部をはじめとし、多くの皆様の善意による保全活動を始めて今年で9年目となりますが、せっかく手入れしたエリアも2~3年も経てば再び雑木で覆われます。

この状況を改善するため、保全・管理部会では協議会の承認を得て2017年11月から、各取水堰から水を引き込むための幹線導水路の補修を行い、コンクリート水路の左岸町道側は第2取水堰を除き、第1・3・4取水堰からそれぞれの幹線導水路への水の引き込みが可能となり、現在は豊富な水が供給されるようになりました。

しかし、中央部の広いエリアに水を供給する役目を担う第2取水堰は1年前から堰の底抜けが拡大し、幹線導水路や補助導水路を整備したにもかかわらず、殆ど幹線導水路は機能していません。このため、同取水堰自体の修復を行うか、少し上流に取水口を移すなどの対策を行う必要があります。

最後に、今年のコンクリート壁右岸側の整備で概ね雑木を除去したことにより、再生工事の際に設置された導水路が確認されました。いずれも導水路としては機能しておらず、山裾からの自然水供給エリア以外は乾燥しています。導水路の全容が確認されたことにより、今後取り組むべき保全・整備対策が見えてきました。次の協議会では会員の皆様からアドバイスやご意見をいただければ幸いです。



「ひろしま山の日」霧ヶ谷湿原保全活動



導水路の全容が確認されたことにより、今後の保全・整備対策が見えてきた。